

住ま

＊…たまには上を向いて

自宅のリビングの天井をじっくりと眺めたことがあるだろうか。洋室の天井と壁が接する部分には「回り縁（まわりぶち）」という細い材が取り付けられている。床の際には壁と床を分ける「巾木（はばき）」という材がある。

巾木は家具などで隠れてしまうことも多いが、回り縁は全体が目に入り、部屋の印象を左右する。にもかかわらず、無造作に両方を同じ色で選んでいる人がほとんどだ。

巾木と回り縁を同じにしななければいけない決まりはなく、回り縁は壁紙の色と合わせてもかまわない。白

Let's リフォーム

西田恭子

お気に入りの天井の格子は残したりリフォーム例



ウッディー感覚の自然素材をテーマにしたインテリアと合わせた天井面



照明を組み込んだ寝室の天井



い壁紙の天井に、茶

系の回り縁を付けると輪郭をくっきりと主張するが、壁紙と同じ系統にするとシンプルで広がりのある空間となる。梁（はり）や柱型

のでこぼこがあるマンショ

が一般的だが、戸建てでもシンプルモダンを追求する場合に付けない選択肢もある。

室内の色は、床は濃く、上にいくほど白に近づけた

ンは、回り縁

で小さな梁の凹凸の陰影が煩雑に感じられる場合には、黒めの壁紙をはって影を目立たなくしてしまう手法もある。

特に寝室の天井は眺める時間も長く、静かなくつろぎ感定番の白のクロスと

方が広く明るく感じるとされ、天井といえは白い壁紙が定番となっている。しかし、トイレや書斎と

いった、そもそも狭い空間はこれにこだわる必要はない。逆に濃いめの壁紙の方が落ち着いた雰囲気になる。マンション

はかきらない。

天井そのものの意匠も、中央部を一段高く折り上げた天井、格子状の枠を組んだ天井などさまざまである。天井を上げると開放感が生まれるが、リフォームでは上げるスペースがとれないケースも多い。その場合、間接照明で圧迫感を解消したり、逆に低さを心地よい落ち着きに変える意匠を提案したりする。

インテリアは床、壁、天井、さらにカーテン、家具などのトータルな組み合わせで構成される。空間の醸し出す雰囲気重要なパーツとして、天井はもっとも意識されるべきだと思う。

天井をくつろぎの空間に変える工夫

（三井のリフォーム 住生活研究所所長、一級建築士）